



刊夕 日四月二十

**郵便貯金の創始**  
貯金局發表

我國に於て郵便貯金が創始せられたのは、實に五十餘年前の明治八年五月であつたが、當時に在つては一般に金銭を蔑視して貨殖を卑むが如き封建時代の遺風が猶行はれつつあつた爲に、制度の周知貯蓄奨励の上にも尠からぬ努力を要した、併もその効果は容易に擧らず、初年末には僅かに預入員千八百四十三人、預金額一萬五千二百二十四圓を算するに過ぎなかつた、其の後當事者の熱心なる貯蓄節約思想の唱導と、時勢に適合せる業務施設の採用と、我國經濟界の急激なる進展とに、相俟つて郵便貯金を

漸次隆盛に赴かじめ、創始十年後には十萬の預金者を數ふるに至つた。斯くして日清戰爭の前年二十六年には預金者百萬に達し日露戰役の三十八年には五千萬圓の預金額を算するに至つた。其の上、戦後の論功行賞に際して、政府が受給者の便益を圖りて恩賜金の下賜に郵便貯金を利用したること、制度の周知上尠からざる効果ありたるが如く、明治四十一年の成申詔書の喚發に依つて國民各自の自覺を呼び起し、漸次貯蓄節約の實績顯はれ、其の結果として郵便貯金は驚く可き加速度を以て發展増大し、四十一年六月には創始後三十三年にして遂に一億圓の預金額を算するに至つた。尙日露戰爭後財界の好況に

伴ひ我が郵便貯金も益々盛大に赴き年々二十萬圓内外の増加率を示しつゝ、幾年ならずして二億圓を突破するに至つた。其の後と雖も増進の趨勢に變りはなかつたが、併し乍ら、或は財界不況の影響を受けて時に増加の歩調を緩める等の事もなればなかつた、然るに、歐洲戰亂の勃發に依る我國財界の活況は我郵便貯金の上にも異常なる發展を促し或は一ヶ年二億圓近い増額をさへ見ることあり、數年ならずして遂に我邦全人口の三分の一以上の預入員を算するの盛大を致し郵便貯金の發達史上全く一時代を畫するに至つたのである。

**小川郷産 御影石各種 玉石もあり**  
コンクリート用の 砂利及び砂  
中山岩 採掘 販賣  
土木請負業  
石材商會  
平町南町一火見下  
電話呼出二六七番

美味で評判の 遠藤パン (平驛前)

**常磐文藝**  
私の川柳  
ノートから  
新島新坊  
飲まぬ氣の花見子供を連れてゆき  
お妾の親は勝手に飯を喰ひ  
小使にだけは威張れる男にて  
再縁をする氣化粧を怠らす  
別荘が有る縁談に親が惚れ  
拗るだけ拗ねて亭主を謝らせ  
ガーゼ縞ほのかに匂ふ曲線美  
女將から聞けば旦那のある效り  
友禱の柄をほめ、兒を覗き  
ヒステリー銀笄を危ぶま

**看護婦派出所**  
の求に應ず  
平町南町  
平看護婦會  
電話三〇七番

**御祝用服装品**  
一、子供マント  
一、子供洋服  
一、シヨール  
一、オーバコート  
一、贈答用品色々  
なごが皆様の町出を店内でたまちして居ります  
四丁目  
鶴屋商店

**西洋料理**  
腕まきのゴツクを雇つてお客様方の嗜好に添ふ様充分勉強します  
出前 平樂亭  
敏速  
五丁目吉田染物店向

建築ペンキ塗  
美術諸看板  
硝子金銀文字  
其他各種  
平町四丁目  
大音堂

**力ガミ**  
使用に耐ぬ鏡も安價で新品と同様に直す鏡の修繕處は。  
古鍛冶町通り 芳香園油店  
(外に新品大小鏡各種取揃へてあります)

日本勸業債券通信社  
福島共榮無盡會社  
外交員募集 大谷保太郎  
磐城平町南町電話三四四番  
他ニ係遇法アリ希望者ハ履歴書持参ノ事外交員ハ自宅ヨリ直接外交ニ當ルモ差支ナシ

月收二百圓以上

**員店**  
てま才七十七りよ才四十

眞面目な商人を養成仕るべく萬中家族的の待遇に候へば御希望の向きに依り  
御本人の 給料、積立、付さ、御面談申上度く是非御申込み願上候  
尙ほ目下在學中に候へし場合は雇入方を豫約致し置くも差支へ無之候  
平町鍛冶町(電話二二二番)  
吉田由三郎

新聞配達人数募集す  
希望者來談あれ  
平白銀町(電話六四番)  
河北新報平支局  
支局長 横山顯

**丸登株式会社**  
平町南町 電話三三二番  
川添房二郎

**株買中値**  
電話に金融致し

銘格	拂込	時價
磐城銀行	五〇、〇	五三、五
平銀行	五〇、〇	六八、〇
磐城銀行	一一、五	一〇、五
磐城銀行	五〇、〇	四二、〇
磐城銀行	三〇、〇	二八、〇
田村實業	一一、五	一一、五
四合銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇、〇	二五、〇
同新	一五、〇	一九、〇
百七銀行	五〇、〇	五五、〇
同新	一一、五	一六、〇
七七銀行	一一、五	九、八
同新	五〇、〇	四三、五
郡山電氣	二五、〇	一九、五
同新	一一、五	七、五
只見川電	一一、五	一五、五
植田水電	一一、五	一三、〇
好開水電	一一、五	一三、〇
磐城製菓	二〇、〇	二六、〇
磐城製菓	二〇、〇	二五、〇
不信託	五〇、〇	二五、〇
磐城勸業	一一、五	一三、五
植田物産	三〇、〇	二六、〇
平製水	二五、〇	一八、〇
好開軌道	五〇、〇	三〇、〇
入山新	二五、〇	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	一七、〇
磐城炭礦	五〇、〇	四一、〇
同新	一一、五	一八、〇
磐城セマン	五〇、〇	六五、〇
同新	三三、〇	四四、〇
平運送	一一、五	八、〇

### 本日磐城炭礦の 綴坑に熱湯が湧出

三星坑と連絡あれば廢坑  
石城郡内郷村磐城炭礦綴坑  
東斜坑内に於て本日午前九  
時頃から卅五立方の温湯湧  
出し初めた爲め警戒中午前  
十一時頃に至つて俄然百立  
方の熱湯噴出し大騒ぎとな  
り折掘入坑中の坑夫數十名  
を非常出坑せしめ排水設備  
に盡力中であるが會社側に  
ては數年前熱湯出水の爲め  
廢坑の止むなきに至つた同  
坑傍らの三星坑と連絡ある  
や否やを目下講究中であつ  
て若し連絡ありとせば廢坑  
以外に執るべき途がないと  
いふ

### 平町の 狂犬豫防

野犬は撲殺射  
平町役場にては来る七八の  
兩日磐城銀行傍空地にて畜  
犬の檢診並びに狂犬豫防注  
射を行ふ筈であるが尙平署  
と協力野犬撲殺を期する筈

### 荷造り注意

歳末に際しては贈答品や其  
他の小荷物類が多いただけ  
に事故が増加する、多忙の  
結果鐵道係員の不注意な取  
扱ひの爲めあらうが普通  
は託送荷が運送店とか相當  
荷造に手なれて居る商人な  
ごの荷物だと荷造りも相當  
研究されて居るが歳末始め

### 常磐片々

鼠賊眞晝間に數ヶ所を荒し  
廻る、此日署長は藝妓を樓  
上に集めてセキ拂ひイトお  
ごそかに訓示中

マタ綴坑に熱湯湧出、地底  
を掘り荒らす罪輕からずと  
温泉神社の祟りか

石油罐を叩いた解雇坑夫郡  
山へ追放、今度は何を叩く  
飯野村民怒る 石城

郡飯野村小學校は過般の暴  
風に敷地龜裂を生じ校舍傾  
くと他新聞に傳へられたが  
何等異狀なく何者かの爲め

### 平窪農事總會 石城 郡平窪農事實行組合にては 明五日後一時から小學校

解雇された坑夫が  
石油罐を打叩きつつ  
百數十名の勞働者を集め  
不穩な演説を始めた

石城郡赤井村福島炭礦坑夫  
秋田縣生れ竹下芳松(三)花  
山某(三)の兩名は昨日突然  
解雇された爲め不満を抱き  
午後四時頃石油罐を叩きな  
がら火事だ火事だと呼び  
百數十名の勞働者を集めて  
會社側の不誠意を鳴し不穩  
な演説を始めた爲め會社側  
は非常な狼狽を來し此旨平  
署に急報せる結果警官駆け  
付け鎮撫に努め前記兩名に  
は汽車賃を與へて柳山に追  
放した結果事なきを得たと

### 藝妓連れの 賊は詐欺を 内職に働く

昨報藝妓を連れて濱町河岸  
を徘徊中警視廳の手に捕は  
れた石城郡川部村前科二犯  
高橋義勝(三)は去る八月中  
田村郡小野新町で佐久間某  
の家に侵入し、その家の  
金庫を開き、現金を盗み、  
その金を用いて、藝妓を  
連れ、濱町河岸を徘徊中、  
警視廳の手に捕はれた。



霜やけは皮膚の抵抗力の弱  
い人がかかり易い爲めに自  
然子供や婦人に多い平凡な  
豫防と治療法

しもやけの  
豫防と治療法  
霜やけは皮膚の抵抗力の弱  
い人がかかり易い爲めに自  
然子供や婦人に多い平凡な  
豫防と治療法

れ、テニス是一般向のもの  
としてラケットなどもポツ  
と出ますが、冬の室内遊  
戯用として、ピンポン等は  
非常に

各家庭 できるこは  
れます、これ等の運動具の  
値段は昨年邊と變りません  
(マルトモ書店談)

平禪學例會 平禪學  
會は明五日後六時半から

平禪學例會 平禪學  
會は明五日後六時半から

### 不平受付

活動寫眞の樂隊 活動寫  
眞の差替へ毎に樂隊で町を  
練り歩るきますが是れは官  
廳や學校の前では公務や授  
業の妨げとなる爲め中止し  
募集 文藝其他投稿  
を募集します

### 募集

手足にぬつたり、茄子の莖  
を煎じた汁、からす瓜等何  
れもよいですが霜やけが始  
つて痛かゆい程度なら樂屋  
へ行つてヨードチンキの薄  
いものを買つて来て塗るの  
は家庭向として最もよいで  
す、これは消毒用にもなり  
ますのでバイキンの入るこ  
とも防ぎます



平町人事  
▲出生  
△古鍛冶町 當時茨城縣磯原町齋  
藤龍雄氏四女季子  
△磐城跡 青木繁氏長男昌司  
△長橋町 鈴木郡司氏長男甲一  
▲死亡  
△鍛冶町 當時茨城縣磯原町吉田  
チウ(四七)  
△一丁目 當時秋田縣由理郡本莊  
町猪狩太郎(二七)

磐城樓上に開かる  
磐崎村の  
解決の斷案下る  
石城郡磐崎村に於て殖林側  
と放牧地側とに分れ多年紛  
糾を重ね延いては村長及び  
村會議員の連袂辭職を見る  
に至り多大の紛擾を醸して  
未だ村長の就任者なく郡衙  
よりの職務管掌を受けつつ  
あるは腰報の如くであるが  
其後水野郡長其他の調停に  
て幾分平靜を保ち村民一同  
事の解決を翹望し居たる處  
去る廿八日附を以つて東京  
大林區署より磐崎村田代四

に於て總會を開き野村郡農  
技師臨席する筈